

いくのdeリノベ

人とのつながりで満たされた家

記念すべき1回目は、リノベーションした自宅を“住み開き”している伊藤千春さんのお住まいです。伊藤さんは“itochiha(イトチハ)”として、人と人をつなげる活動に積極的に取り組まれています。住み開きとは、自宅をさまざまな人が訪れるパブリックスペースとして共有すること。新たなコミュニティ創出の取組みでもあります。伊藤さんも、ギャラリーやイベントスペース等として開放されています。



20代半ばで建築に興味を持たれた伊藤さん。専門学校卒業後、設計の仕事に携わる中で「自分たちでリノベーションしたい!」という想いが強くなったと話します。自由に手を加えられる物件を探して出会った桃谷の古民家。空き家だった家屋の内壁や床の張り替え水回りに至るまで自らで改修。費用を抑える観点でも工夫された室内は、使えるものを極力残し、昔ながらの家屋の良さが存分に生きています。

玄関から続く土間の突き当りはなんとお風呂!ガラス戸の浴室に驚くと「壁をつくと土間の突き当りが暗くて空気が滞ってしまうのが嫌。」とのこと。「好きな時間はお風呂の時間。特に明け方のお風呂



▲JR桃谷駅から徒歩10分ほどの古い家屋が並ぶ桃谷地区。下町情緒あふれる桃谷の空気に溶け込むようにご自宅があります。さりげなく置かれた植木や自転車も家を素敵に飾っています。

が好き。波板の屋根が、空の気配や小雨の雨音まで伝えてくれる。家の中にいながら外を感じられるのでお気に入りです。」狙い通り光と風が通る贅沢な空間です。



「ここは、昔から住んでいる人が多くて町会活動がしっかり残っている。日常の声かけが自然にある。苦手に感じる人もいるかもしれないが、地方出身の私にはそれが性に合う。“ものづくりのまち”というのも魅力。この家を作ったときも



今も、ものづくりを通して新しいつながりができた。とても住みやすいまちだと思う。」と話す伊藤さん。整然としつつも“温かさ”が漂うお住まいは、人の温もりや優しさに溢れた場所でした。

いくのdeリノベの取材の様子や詳しい情報をブログでご紹介しています。



素敵な“お隣さん”を紹介してください!

「いくのdeリノベ」では、生野区らしいリノベーション暮らしを紹介します。(他薦のみ)

- お隣さんの条件** 生野区在住で古い家屋をリノベーションし、自分らしく暮らしている方
- 応募方法** 「問合せ」へ下記事項を連絡ください。
(電話・FAX・郵送で受付)
①あなたのお名前・ご連絡先
②紹介したい“お隣さん”のお名前・場所(可能であれば連絡先)

問合せ 区企画総務課 ☎6715-9683 FAX6717-1160 〒544-8501 生野区勝山南3-1-19

★空き家の相談はこちら☎6715-9734

IKUNO×グローバル

金昌鏞さん
(Kim Changyong/キム チャンヨン)
韓国出身。22歳で来日し、現在は介護職に携わる。東桃谷地域に在住、妻と娘2人の4人家族。



金さんにとって生野区とは?

生野区は韓国・朝鮮、中国、ベトナム、タイ…と本当に色々な国の方がいる。様々なルーツを持つ人々が交わる地域、ありのままの自分で住める場所です。昔ながらの町並みが残っているのでご近所さんともほどよい距離感で、料理のいい匂いで晩ご飯がなんとなくわかったり(笑)。逆に、体調を崩した時などは周りが気づくことができ、安心して暮らせる。日々の生活の中で自然につながりあえています。今私が携わっている介護業界の「地域包括サービス」にもつながる関係性が生きている地域です。

国籍にかかわらず、同じまちに住む人々は「自分のまちをつくる」仲間。互いに手を携えれば温もりも伝わります。自分の文化を大切に、相手の文化を認める社会になってほしい。生野区はそれができるまちだと思います。

IKUNO×グローバルは生野区ブログでも発信しています。

生野区 チームいくみん通信

有限会社シューズ・ミニッシュ

【Re:getA】は“下駄をもう一度”というコンセプト。下駄のようにかかとから着いて蹴りだす感覚を追求し、丸みを帯びた独特な形に行き着いたそう。



シューズやサンダルの製造・卸を手掛け、【Re:getA】【Porma-ma】【Regetta Canoe】の3つのオリジナルブランドを展開。同社は生野区民センターホール「リゲッタIKUNOホール」のネーミングライツパートナーになっていただいています。

靴職人でもある高本さんは、安価な海外製品の影響で事業存続の危機に直面した際に、下請けを続けるより企画から製造・卸までを一貫して担うメーカーへ転じることを決断。試行錯誤を繰り返しながら、はき心地がよく、歩きやすく、デザイン性に優れたものを追求し、1年がかりで【Re:getA】が出来上がりました。メイド・イン・生野の靴を作ることにこだわり、生野区の靴作りの職人や工場と連携することで生野を元気にしたい!と熱い思いに燃える高本さん。いまや同社の製品は東南アジアを中心に世界で販売されています。



代表取締役・靴職人 高本 やすおさん

生野ものづくり百景について、詳しくはホームページをご覧ください。

生野区 ものづくり百景

